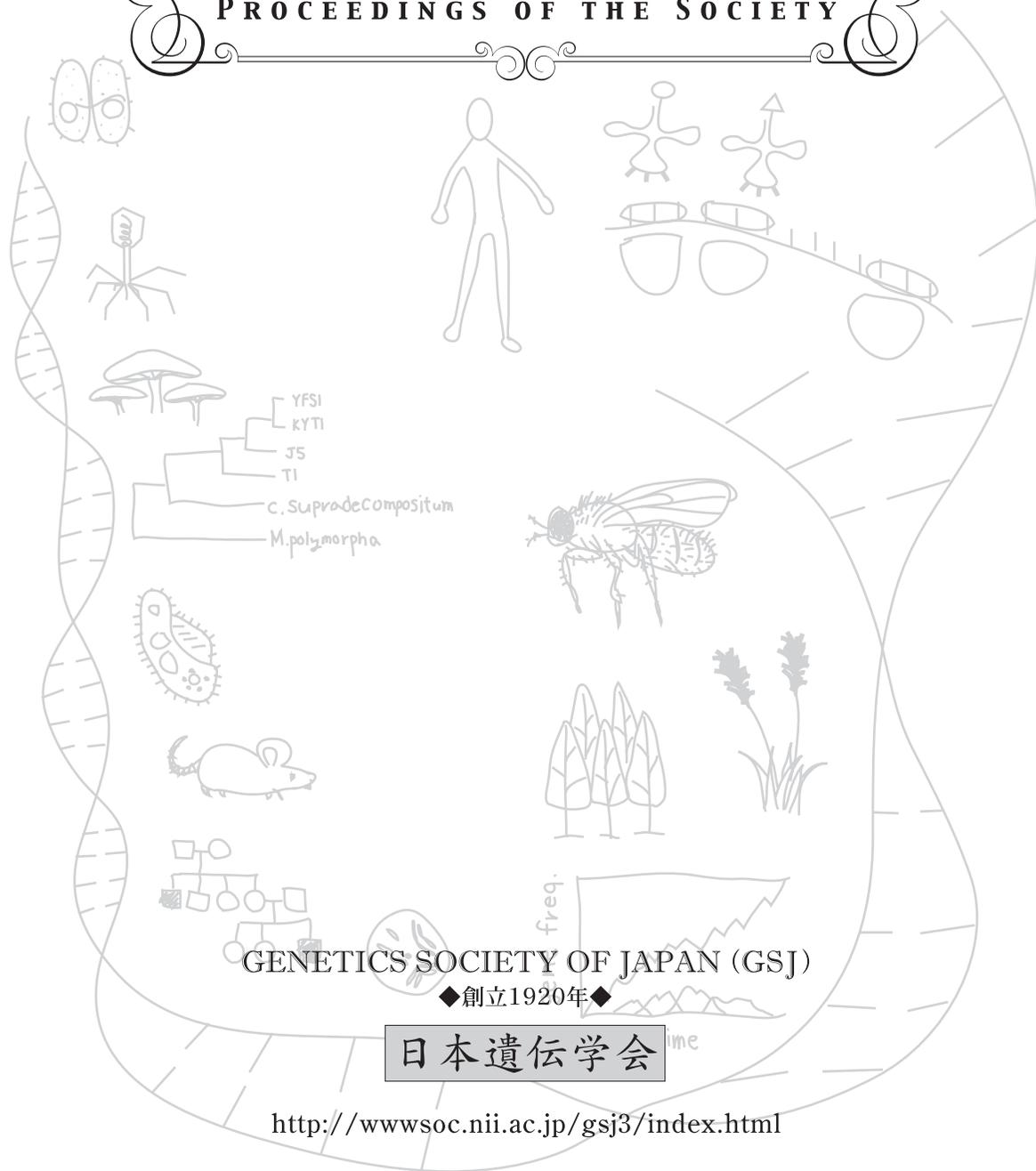


SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST.(2011)86(4) August 2011

GSJ

コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

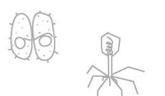


GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会 inc

<http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>

	目 次	頁
	総会次第	3
	1) 会員数	3
	2) 2011年度役員名簿	4
	3) 2010年度決算報告書（単年度）	4
	4) 2011年度中間報告（2010年6月30日現在）	5
	5) 2012年度予算案	6
	6) 2011年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞	6
	7) 協力委員会	6
	8) 学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール	7
	9) 年次大会開催地一覧	8
	日本遺伝学会・国際シンポジウム報告	9
	2011年度日本遺伝学会第2回評議員会議事録	12
	日本遺伝学会第83回総会議事録	14
	2011年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議事概要	15
	日本遺伝学会第83回大会報告 遠藤 隆	18
	日本遺伝学会第83回大会を終えて 遠藤 隆	18
	新名誉会員および学会賞受賞者の紹介	19
	2011年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書	20
	2011年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書	22
	山田科学振興財団2012年度研究援助候補推薦について	24
	藤原科学財団 募集のご案内	24
	● 本 会 記 事 会員異動	25

日本遺伝学会第83回大会総会

日 時 2011年9月21日(水) 15時10分～16時10分

場 所 農学部総合館講義室 W100 (A会場)

総会次第

1	大会委員長挨拶	委員長	遠藤 隆
2	日本遺伝学会会長挨拶並びに報告	会長	五條堀 孝
3	報告		
a	幹事報告	国内庶務幹事 渉外庶務幹事 会計幹事 編集幹事 企画・集会幹事 将来計画幹事 男女共同参画推進担当 広報担当, ホームページ編集 遺伝学普及・教育担当 その他	小林 武彦 岩崎 博史 真木 寿治 舘田 英典 遠藤 俊徳 山本 博章 松浦 悦子 関根 靖彦 池村 淑道
b	学術会議から	学術会議連携会員	五條堀 孝
c	学会賞選考委員会報告	委員長	五條堀 孝
d	生物科学学会連合報告	委員	岩崎 博史
e	その他		
4	議事		
a	2010年度決算	会計幹事 会計監査	真木 寿治 田中 秀逸
b	2012年度予算案	会計幹事	真木 寿治
c	第85回大会について	企画・集会幹事	遠藤 俊徳
d	国内名誉会員の推薦について	会長	五條堀 孝
e	その他		
5	次期(第84回)大会委員長挨拶	第84回大会委員長	中別府雄作
	日本遺伝学会木原賞・奨励賞授与式	会長	五條堀 孝

1) 会員数 (2011年8月30日現在)

普通会員	908名 (内学生会員 213名)
外国会員	11名
機関会員	51件
賛助会員	2件
名誉会員	国内 14名 外国 12名
計	998名

2) 2011年度役員名簿

会 長	五條堀 孝				
評議員					
全国区	荒木 弘之	郷 通子	榎藤 洋一	印南 秀樹	角谷 徹仁
	小林 一三	松田 洋一	岡田 典弘	佐々木裕之	颯田 葉子
北海道地区	黒岩 麻里	鈴木 仁			
東北地区	石川 隆二	渡辺 正夫			
関東地区	深海 (小林) 薫	松本 幸次			
東京地区	平野 博之	米田 好文			
中部地区	倉田 のり	高野 敏行			
関西地区	宮田 隆	那須田周平			
中国・四国地区	村田 稔	富永 晃			
九州地区	大野みずき	佐渡 敬			
幹 事					
国内庶務幹事	小林 武彦				
渉外庶務幹事	岩崎 博史				
会計幹事	真木 寿治				
編集幹事	館田 英典				
企画・集会幹事	遠藤 俊徳				
将来計画幹事	山本 博章				
男女共同参画推進担当	松浦 悦子				
広報担当, ホームページ編集	関根 靖彦				
遺伝学普及・教育担当	池村 淑道				
会計監査	深川 竜郎	田中 秀逸			
第83回大会委員長	遠藤 隆				

学会賞選考委員会 (2011)

委員長	五條堀 孝 (木原賞のみ)				
委員	郷 通子	岡田 典弘	佐々木裕之	堀田 凱樹	高畑 尚之

研究助成金等推薦調査委員会 (2011)

委員長	五條堀 孝				
委員	郷 通子	平野 博之	印南 秀樹	角谷 徹仁	小林 一三
	米田 好文	倉田 のり	岡田 典弘	佐々木裕之	颯田 葉子

3) 2010年度決算報告書 (単年度)

A 収 入		(単位 円)	B 支 出		(単位 円)
摘 要	決 算		摘 要	決 算	
1 学 会 費	6,759,000		1 事業費	7,068,936	
2 賛助会費	180,000		雑誌製作費	5,029,697	
3 科学研究費補助金	1,700,000		大会補助費	823,428	
4 事業収入	4,152,850		遺伝学談話会補助費	74,920	
雑誌売上	1,146,970		大会学生旅費補助	800,000	
別刷売上	3,004,240		協力委員会分担金	340,891	
利 息	1,640		2 評議委員会／幹事会費	339,668	
5 木原基金	400,000		3 事 務 費	1,462,458	
6 雑 収 入	76,354		雑誌発送費	458,517	
小 計	13,268,204		封筒代	0	
総 計	13,268,204		編集経費	318,670	
			事務所経費	685,271	
			4 学会賞関係費	699,144	
			5 選挙関係費	0	
			6 謝 金	1,276,340	
			小 計	10,846,546	
			7 予 備 費	2,421,658	
			総 計	13,268,204	

4) 2011年度中間報告 (2011年6月30日現在)

A 収 入

(単位千円)

摘 要	(A) 予 算	(B) 1月～6月 収入額	(C) 7月～12月 収入見込額	(B + C) 収入見込額
1 学 会 費	7,500	5,397	1,500	6,897
2 賛助会費	80	0	80	80
3 科学研究費助成金	1,700	0	1,600	1,600
4 事業収入	3,405	2,321	983	3,304
雑誌売上	1,400	864	432	1,296
別刷売上	2,000	1,457	550	2,007
利 息	5	0	1	1
5 木原基金	200	0	400	400
6 雑 収 入	55	10	40	50
小 計	12,940	7,728	4,603	12,331
7 繰り越し金	0	2,422	-	2,422
総 計	12,940	10,150	4,603	14,753

B 支 出

(単位千円)

摘 要	(A) 予 算	(B) 1月～6月 支出額	(C) 7月～12月 支出見込額	(B + C) 支出見込額
1 事 業 費	8,250	3,072	6,216	9,288
雑誌製作費	6,000	2,982	4,200	7,182
大会補助費	1,000	0	1,000	1,000
遺伝学談話会補助費	300	0	100	100
大会学生旅費補助費	800	0	636	636
協力委員会分担金	150	90	280	370
2 評議委員会／幹事会費	750	867	380	1,247
3 事 務 費	1,980	1,006	1,190	2,196
雑誌発送費	550	251	460	711
封筒代	230	0	230	230
編集経費	500	232	240	472
事務所経費	700	523	260	783
4 学会賞関係費	560	19	750	769
5 選挙関係費	0	0	0	0
6 謝 金	1,400	627	626	1,253
小 計	12,940	5,591	9,162	14,753
7 予 備 費	0		0	0
総 計	12,940	5,591	9,162	14,753

5) 2012年度予算案

A 収入の部		(単位千円)	B 支出の部		(単位千円)
摘 要	予 算		摘 要	予 算	
1 学 会 費	7,500		1 事 業 費	8,500	
2 賛助会費	80		雑誌製作費	6,000	
3 科学研究費補助金	1,600		大会補助費	1,000	
4 事業収入	3,905		遺伝学談話会補助費	300	
雑誌売上	1,300		大会学生旅費補助	800	
別刷売上	2,600		協力委員会分担金	400	
利 息	5		2 評議委員会／幹事会費	500	
5 木原基金	200		3 事 務 費	2,390	
6 雑 収 入	55		雑誌発送費	560	
			封筒代	230	
小 計	13,340		編集経費	500	
			事務所経費	1,100	
総 計	13,340		4 学会賞関係費	550	
			5 選挙関係費	0	
			6 謝 金	1,400	
			小 計	13,340	
			総 計	13,340	

6) 2011年度日本遺伝学会木原賞・奨励賞

日本遺伝学会木原賞	石浦 正寛 (名古屋大学遺伝子施設施設) 会員	「藍色細菌と植物の生物時計の分子遺伝学的研究：時計分子装置のリアルタイム測定、構造、機能」
日本遺伝学会木原賞	近藤 孝男 (名古屋大学大学院理学研究科) 会員	「シアノバクテリアの概日時計の分子遺伝学と時計蛋白質 KaiC の分子生理・生化学」
日本遺伝学会奨励賞	石井浩二郎 (大阪大学大学院生命機能研究科) 会員	「染色体高次機能構築の制御機構」
日本遺伝学会奨励賞	佐瀬 英俊 (国立遺伝学研究所 総合遺伝研究系) 会員	「シロイヌナズナを用いた新たな DNA メチル化制御機構の研究」

7) 協力委員会

同位元素協会委員	蓮沼 仰嗣
自然史学会連合委員	館野 義男
生物科学学会連合委員	岩崎 博史

8) 学会推薦学術賞・研究助成の年間スケジュール

件名	助成団体名	締切
猿橋賞	女性科学者に明るい未来をの会	2011年11月30日(水)
東レ科学技術賞・研究助成	(財)東レ科学振興会	2011年10月7日(金)
沖縄研究奨励賞	(財)沖縄協会	2011年9月30日(金)
朝日賞	朝日新聞社	2011年8月31日(水)
内藤記念科学振興賞	内藤記念科学振興財団	2011年10月3日(月)
内藤記念海外学者招へい助成	内藤記念科学振興財団	前期 2011年6月1日(水)
		後期 2011年10月3日(月)
木原記念財団学術賞・特別賞	(財)木原記念横浜生命科学振興財団	2011年9月30日(金)
井上学術賞	井上科学財団	2011年9月20日(火)
井上研究奨励賞	井上科学財団	2011年9月20日(火)
井上リサーチアワード	井上科学財団	2011年7月29日(金)
研究調査助成	(財)日本証券奨学財団	2011年8月6日(金)
持田記念学術賞	(財)持田記念医学薬学振興財団	2011年7月29日(金)
研究助成金	(財)持田記念医学薬学振興財団	2011年6月24日(金)
留学補助金	(財)持田記念医学薬学振興財団	2011年6月24日(金)
基礎科学研究助成	(財)住友財団	2011年6月30日(木)
環境研究助成	(財)住友財団	2011年6月30日(木)
山崎貞一賞	材料科学技術振興財団	2011年4月30日(土)
藤原賞	(財)藤原科学財団	2011年1月31日(月)
研究助成金	(財)山田科学振興財団	2011年3月31日(木)
慶應医学賞	慶應義塾医学振興基金	2010年3月22日(月)正午
加藤記念国際交流助成	(財)加藤記念バイオサイエンス 研究振興財団	前期 平成22年2月28日
		後期 平成22年8月31日

各種助成金の募集

学会の推薦を必要とする場合は学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締め切る。尚、各助成金の詳細については事務局までお問い合わせ下さい。

9) 年次大会開催地一覧

回	年	月	日	会 場	回	年	月	日	会 場
1	1928(昭3)	10	19	九州帝国大学農学部	43	1971(昭46)	10	20~22	九州大学理学部・農学部
2	1929(昭4)	7	26	北海道帝国大学農学部	44	1972(昭47)	10	7~9	岡山大学理学部・法文学部
3	1930(昭5)	10	31	東京農事試験場	45	1973(昭48)	10	14~16	名古屋大学農学部
4	1931(昭6)	10	31	京都帝国大学・楽友会館	46	1974(昭49)	9	10~12	福祉会館(仙台)
5	1932(昭7)	10	14	名古屋医科大学	47	1975(昭50)	10	3~5	日本大学三島校舎
6	1933(昭8)	10	26	広島文理科大学 動物学教室	48	1976(昭51)	10	28~30	日本生命中之島研究所(大阪)
7	1934(昭9)	12	21	台北帝国大学 生物学教室	49	1977(昭52)	9	28~30	北海道経済センター(札幌)
8	1935(昭10)	10	21	金沢医科大学 法医学教室	50	1978(昭53)	10	8~10	東京農業大学
9	1936(昭11)	10	16	岡山医科大学 生理学教室	51	1979(昭54)	10	11~13	京都大学農学部
10	1937(昭12)	7	31	北海道帝国大学理学部	52	1980(昭55)	10	6~8	富山大学教養部
11	1938(昭13)	10	13~15	九州帝国大学農学部・医学部・九州小麦試験地	53	1981(昭56)	10	12~14	広島大学総合科学部
12	1939(昭14)	10	14~15	科学博物館(東京)	54	1982(昭57)	11	19~21	九州大学医学部
13	1940(昭15)	8	27~28	京城帝国大学医学部	55	1983(昭58)	10	8~10	東北大学教養部
14	1941(昭16)	地方談話会大会 (6会場)		(総会予定地は仙台)	56	1984(昭59)	11	23~25	日本大学国際関係学部
15	1942(昭17)	10	27~28	東北帝国大学 農学研究	57	1985(昭60)	10	13~15	神戸大学農学部・理学部・自然科学系
16	1943(昭18)	10	20~21	京都帝国大学・楽友会館	58	1986(昭61)	12	4~7	名古屋観光ホテル
17	1944(昭19)	地方談話会大会 (7会場)		(総会予定地は名古屋)	59	1987(昭62)	10	29~30	筑波大学生物科学系
18	1946(昭21)	11	18~19	静岡高等学校	60	1988(昭63)	10	8~10	京都大学農学部
19	1947(昭22)	10	21~22	松本高等学校	61	1989(平元)	10	13~15	北海道大学学術交流会館
20	1948(昭23)	10	23~24	高野山	62	1990(平2)	10	4~6	お茶の水女子大学
21	1949(昭24)	10	20~22	名古屋大学理学部	63	1991(平3)	10	16~18	九州大学箱崎キャンパス
22	1950(昭25)	10	14~16	東京大学医学部	64	1992(平4)	10	22~24	仙台国際センター
23	1951(昭26)	10	11~12	広島大学教養部	65	1993(平5)	9	17~19	日本大学国際関係学部
24	1952(昭27)	10	8~10	新潟大学医学部	66	1994(平6)	10	8~10	大阪大学医学部講義棟
25	1953(昭28)	11	7~8	国立遺伝学研究所	67	1995(平7)	10	12~14	岡山大学一般教育講義
26	1954(昭29)	10	28~30	京都大学医学部	68	1996(平8)	10	3~5	名古屋・椋山女学園大学
27	1955(昭30)	10	16~18	岡山大学	69	1997(平9)	11	1~3	横浜市立大学瀬戸キャンパス
28	1956(昭31)	10	6~8	富山市公会堂	70	1998(平10)	9	23~25	北海道大学学術交流会館
29	1957(昭32)	9	3~5	北海道大学農学部	71	1999(平11)	9	24~26	広島大学理学部・法学部・経済学部
30	1958(昭33)	10	16~19	名古屋大学医学部	72	2000(平12)	11	3~5	京都大学農学部・京都会館会議場
31	1959(昭34)	11	4~7	大阪大学医学部	73	2001(平13)	9	22~24	お茶の水女子大学
32	1960(昭35)	10月30日~ 11月1日		九州大学工学部	74	2002(平14)	10	1~3	九州大学箱崎キャンパス
33	1961(昭36)	9	1~3	東北大学川内分校	75	2003(平15)	9	24~26	東北大学川内キャンパス
34	1962(昭37)	10	17~18	日本大学文理学部三島校舎	76	2004(平16)	9	27~29	大阪大学コンベンションホール
35	1963(昭38)	10	8~10	東京大学教養学部	77	2005(平17)	9	27~29	国立オリンピック記念青少年総合センター(東京)
36	1964(昭39)	10	18~20	愛媛大学	78	2006(平18)	9	25~27	つくば国際会議場
37	1965(昭40)	10	18~20	京都大学医学部・楽友会館	79	2007(平19)	9	19~21	岡山大学
38	1966(昭41)	8	10~12	北海道大学教養部	80	2008(平20)	9	3~5	名古屋大学
39	1967(昭42)	10	9~11	神戸大学教養部	81	2009(平21)	9	16~18	信州大学
40	1968(昭43)	10	7~9	広島大学教養部・政経学部	82	2010(平22)	9	20~22	北海道大学高等教育機能開発総合センター
41	1969(昭44)	10	10~12	金沢大学工学部	83	2011(平23)	9	20~22	京都大学農学部・農学研究科(吉田キャンパス北部構内)
42	1970(昭45)	10	5~7	東京女子大学短期大学部					

日本遺伝学会・国際シンポジウム報告

—目的と概要—

第83回日本遺伝学会京都大会にて、特別国際シンポジウム「アジアの遺伝学のネットワーク構築を目指して」を行いました。アジア遺伝学会のような機構ができればいいなどの思いから、その可能性を探るため、アジアの遺伝学分野における発展を発表し合って、意見交換を行うことが目的でした。

会長の五條堀と会計幹事で奈良先端科学技術大学院大学の真木寿治教授がオーガナイザーとなっていますが、学会から庶務幹事小林武彦・遺伝研教授がオーガナイズに参画しました。また、遠藤 隆大会長の全面的な支援を受けました。

招待講演者としては、7名の世界的に活躍するアジア各国の遺伝学やゲノム関係の研究者にお願いしました。遺伝学のアジアネットワークの構築を目指すならば、今回招待をした研究者の分野だけでは全体を到底カバーできておらず、国内外を問わずにさらなる他の分野の研究者の方々への参画をお願いする必要があります。

しかしながら、とにかく、議論を始めないことには何も前に進まないのです。そのキックオフミーティングという意味では、この国際シンポジウムは非常に意義深かったと思います。

—シンポジウムの経過報告—

小林武彦・庶務幹事の開会の言葉から、シンポジウムが始まりました。司会は、全体を通して真木・会計幹事が行いました。

招待講演者のそれぞれの発表を簡単に報告しておきます。(発表時の写真は、招待講演者のお一人の Dr. Partha P. Majumder の撮影によるものです。: All the pictures shown here are taken by Dr. Partha P Majumder, the Director of NIBMG, India.)

(1) Chung-I Wu, Director, Beijing Institute of Genomics, CAS, Beijing, China

“Recent development of Beijing Institute of Genomics and importance of data analysis” という題目での講演でした。いつもながら、迫力ある講演でした。特に、この研究所から独立分離して、深センにて Private sector として巨大な組織となった BGI (Beijing Genome Institute) との関係や、そこでの発展のあり方なども話してくれました。

一步間違えば、政治性の極めて高い状況も存在するようで、中国国内の体制については、非常に慎重な論調でした。彼の研究所の巨大なビルが、ちょうど北京オリンピック会場近くの CAS キャンパスの入口付近にちょうど建設中で、まもなく完成なようです。現在も、シカゴ大学の教授を兼任しており、以前10年間ほど、シカゴ大学で Department Chair などを歴任していました。



(2) Mohamad bin Osman, President, Genetics Society of Malaysia



“Genetics Society of Malaysia and its activities” と題しての講演でした。マレーシア遺伝学会の会長として、学会活動の紹介を中心に話されました。まだ設立15年目で学会員数も250名程度なのですが、非常にポテンシャルの高い学会のようです。特に、若い優秀な人材が豊富なようです。

(3) Hong Gil Nam, Special Professor, Pohang University of Science and Technology, Kyunbuk, Korea

韓国にたった10人しか任命されていない Special Professors の一人。毎年1億円(日本円換算)程度を無条件に10年間受けているとのこと。確かに、彼の大学の Life Science Department のビルには、Nam 教授の顔写真の載った大きな垂れ幕がかかっている、若いながらも大学だけでなく韓国においても超有名人です。ゲノム分野に大きな研究開発資金を呼び込もうと、韓国政府との交渉に入っているとのこと。大統領府と直接話せる数少ない研究者の一人との評判でした。



(4) Partha P Majunder, Director, National Institute of Biomedical Genomics, Kyungbuk, India

“A perspective of NIMBG and Indian activities in genetics and genomics” という題目の講演でした。彼の研究所は、インド政府が約30億円（日本円換算）を投入して昨年設立された新しいバイオメディカル・ゲノミクスの研究所です。インド政府期待の研究所でしょう。コルカタ（旧カルカッタ）郊外に、現在巨大な最新鋭のビル（DNA 2重らせんを型どった建物）が建設中です。インドの ISI (Indian Statistical Institute: インド国立統計学研究所) は、JBS Haldane が設立したこともあり、遺伝学のメッカでもありました。Partha P Majunder は、その ISI からの独立です。

（彼が写真を撮ってくれたので、彼自身の写真がありません。代わりにこちらで撮ったパネルディスカッションの風景を載せておきます。右から3番目が彼です）

(5) Tzen-Yuh Chiang and Chi-Chung Hwang, Professors, National Cheng Kung University, Taiwan



Professor Tzen-Yuh Chiang が代表して講演しました。“Life Science in NCKU and importance of education” という題目でした。成功大学は台南市にある有名大学。台北市の国立台湾大学と並んで台湾の2大有名校と称される大学です。最近、台湾政府から5年間で1,500億円もの大量な資金を、COEとして大学全体で獲得。Hwang 学長は、工学部の出身ながら、ライフサイエンス特にゲノム分野の発展にその資金の大半を投入するとのことでした。実際、新しい大きなライフサイエンスのビルの建設がまもなく始まります。

(6) Wen-Hsiung Li, Director, Research Institute of Biodiversity, Academia Sinica, Taiwan

“Biodiversity research and its perspective of the future” という演題での講演でした。米国のシカゴ大学の教授も兼任。米国の科学アカデミー会員の一人。台湾国内では、米国アカデミー会員はわずか数人で、そのうちの一人。台湾政府にも大きな影響力をもつようです。台北市のアカデミア・シニカのキャンパスで一番新しい巨大なビルがまもなく完成。引越しの大移動が大変だとのことでした。



ーパネルディスカッションー

シンポジウムの各人の講演の後は、パネルディスカッションを行いました。

講演者と真木先生が、演題の前に用意された椅子に座り、五條堀が司会をしました。

主に、「遺伝学やゲノム分野でアジア連携や新しいアジア学会のようなものをつくる場合の、メリットと予想される障害」と、「アジアが日本に期待するもの」という2つの大きな質問に絞って議論しました。一人1分以内の応答という条件で、わずか40分間のパネルディスカッションではありましたが、なんとか形にはなりました。いずれにしても、中国、韓国、台湾では、大きなお金が研究分野にも、どんどん投入されてきており、残念ながら日本だけが取り残されていくような不安を強く感じました。さらに、「日本には金がない」という状



パネルディスカッションの風景

況を、アジアのこのような国々の人々が気づき出してきているように思います。

「日本に何を期待するか」という質問には、「リーダーシップ」という答えよりも、「国別ではなく、「アジア」ということでいいではないか」との指摘が多かったです。「アジア No.1」からの転落だけではなく、日本からの発信をできる限り強めていかないと、我が国だけ「落ち込んで行く」可能性もありえるかもしれません。

—まとめ—

このシンポジウムを通して、「Society for Genetics, Genomics, and Computational Biology」というアジア学会を構築することで合意されました。この名称は依然として仮称ですが、名称に Computational Biology を入れるという強い要望を出す人がいて、そのような仮称になっています。これも異論のあるところも多いでしょうし、もっと関係する分野の方々の参画が必要と思われます。

今回は、具体的な研究内容というよりは、研究体制の紹介や説明が主になっていました。しかしながら、当初企画したように、キックオフしての議論のスタート台に立つというこの国際シンポジウムの所期の目的は、十分に果たされたと思います。

(了)

(報告：五條堀 孝, 小林武彦)



おしらせ

2011年11月3日に杉浦昌弘名誉会員が瑞宝重光章を授賞されました。

2011年度日本遺伝学会第2回評議員会議事録

日 時：2011年9月19日（月） 14時10分～16時10分

場 所：京都大学吉田キャンパス北部構内旧演習林事務室会議室

出席者：（会 長）五條堀 孝

（幹 事）小林 武彦, 真木 寿治, 岩崎 博史, 池村 淑道, 遠藤 俊徳, 松浦 悦子, 関根 靖彦,
館田 英典, 榎屋 啓志（順不同）

（大会委員長）遠藤 隆

（評議員）荒木 弘之, 権藤 洋一, 小林 一三, 佐々木裕之, 颯田 葉子, 石川 隆二, 深海(小林) 薫,
松本 幸次, 倉田 のり, 高野 敏行, 那須田周平, 村田 稔, 大野みずき, 佐渡 敬,
富永 晃, 角谷 徹仁, 岡田 典弘, 平野 博之（順不同）

（次期大会委員長）中別府雄作

1 会長挨拶（五條堀）

2 大会委員長挨拶（遠藤 隆）

第83回大会準備状況について報告がなされた。

3 報告

3.1 会長（五條堀）

- 第82回大会以降の物故会員について以下のとおり報告がなされた。
宮山平八郎会員（2008年1月24日ご逝去 享年93歳）、
笠原 道弘会員（2010年11月4日ご逝去 享年68歳）
- 第83回日本遺伝学会京都大会・特別国際シンポジウム開催（中国、韓国、台湾、マレーシア、インドから参加）について報告がなされた。
- 東北地方太平洋沖地震の復興への学会の取り組みとして、東北地区会員からの復興への要望を受け付けているが、今のところ要望がない。また、原発の問題については、もう少し慎重に対応していきたい。

3.2 国内庶務幹事（小林）

- シンポジウム等の後援、協賛の報告がなされた。
「第48回アイソトープ・放射線研究発表会 7/6-8」
「女子中高生のための関西科学塾2012」
- 学術賞・研究助成の結果報告がなされた。結果は以下の通り。
2011年度山田科学振興財団研究援助 久原 篤（甲南大学）230万円採択。
東レ助成、猿橋賞、井上学術賞、木原学術賞、藤原賞、山田財団各1件不採択

3.3 渉外庶務幹事（岩崎）

- 生物科学学会連合の活動として、生科連案内パンフレットの発行、生物学 Olympic 委員会活動として、今年台湾にて生物学 Olympic が開催され、金メダル3名、銀メダル1名を獲得した。（石和先生（代）岩崎）

3.4 会計幹事（真木）

2010年度の収支報告、2011年度の中間報告、決算報告外資金についての報告がなされた。また、特別事業基金からの特別支出として、大会参加登録・演題登録システム、電子化投票システムおよび遺伝学用語集編集委員会への支出について報告がなされた。また、会員数の報告では1,000名を割っていることより、今後会員の減少に歯止めをかける対策について意見が求められた。

3.5 編集幹事（館田）

GGsの編集および発行状況、GGs論文賞選考経過、新規投稿システムへの移行について報告がなされた。（詳細は編集委員会議事録を参照）

3.6 企画集会幹事（遠藤俊徳）

- 第84回大会（九州）は2012年9月24, 25, 26日に開催することが中別府雄作次期大会委員長より報告がなされた。
- 第85回大会候補地は関東地区で開催予定と報告がなされた。
- 遺伝学談話会については今後 HP にて開催の募集をすると報告がなされた。
- 次回の大会では若手がオーガナイズになれるような企画を検討するよう要望がなされた。

3.7 将来計画幹事（小林代理）

- 法人化については今後の社会情勢を見守りながら、対応について検討していくこととした。

- 遺伝学用語集編集委員会の活動報告が樹屋会員よりなされた。
 - 一遠藤俊徳幹事の協力により遺伝学用語オンライン編集システムの立ち上げについて報告がなされた。
 - 内容は WIKI を基盤としたシステムによって運用され、これまで検討した約2,800語を収録している。
- 3.8 男女共同参画（松浦）

2011年度会員の動向（会員の男女比、年代別男女比）、大会演題登録時でのウェブアンケートの実施、および今大会より大会参加のための支援を実施し、1件の申請があったと報告がなされた。また京都大会ではランチョン WS を京都大学女性研究者支援センターと共催することについて報告がなされた。その他として「女子中高生のための関西科学塾への支援」および第9回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムへの参加（10/31筑波大学にて）について報告がなされた。
- 3.9 広報担当（関根）

英語版 HP の強化および GSJ コミュニケーションズのアーカイブ化など、今後の HP 対応について報告がなされた。
- 3.10 遺伝学普及・教育担当（池村）

未来館との共催について、平賀名誉会員の電子図書についての報告がなされた。
- 3.11 日本学術会議報告（五條堀）

8月30日の会議の報告がなされた。中高生の理科教育の現状等。
- 3.12 2011年度日本遺伝学会賞選考委員会報告（五條堀）

7月11日に学士会館にて開催された学会賞選考委員会について次のとおり報告がなされた。木原賞2件奨励賞4件の応募があり、審議の結果、次の会員を授賞者とした。

木原賞：石浦 正寛会員，近藤 孝男会員
奨励賞：石井浩二郎会員，佐瀬 英俊会員
- 4 協議事項

2010年度決算および2012年度予算案は会計幹事報告の際に、審議され了承された。

第85回大会開催地は企画集会幹事報告の際に、審議され了承された。国内名誉会員候補者として石和貞男元会長および高木信夫前大会委員長を推薦することが了承された。

以上

日本遺伝学会第83回総会議事録

日 時 2011年9月21日(水) 15時10分～16時10分
場 所 京都大学農学部総合館講義室 W100 (A会場)
出席者 五條堀会長, 幹事他90名

1. 議長選出

議長に山本雅敏会員(京都工芸繊維大学), 寺地 徹会員(京都産業大学)が選出された。

2. 遠藤 隆大会委員長挨拶

3. 五條堀日本遺伝学会会長挨拶

4. 報告事項(評議員会議事録参照)

5. 議 事

① 2010年度会計決算について

真木会計幹事から総会資料にもとづき説明がなされた。また、田中秀逸会計監査から、6月15日に深川竜男会計監査とともに国立遺伝学研究所にて会計監査を実施した結果、2010年度の会計は適正に行われている旨の報告があり、それぞれ承認された。

② 2012年度予算案について

真木会計幹事から、総会資料にもとづき説明があり、予算通り承認された。

③ 第85回大会について

遠藤企画集會幹事から、第85回大会が評議員会において関東地区で開催することが認められている旨の報告がなされ、同地区での開催が承認された。

④ 名誉会員の推薦

五條堀会長から、国内名誉会員に石和貞男会員、高木信夫会員を推薦したい旨の報告があり、了承された。

⑤ 第84回大会委員長挨拶

中別府雄作次期大会委員長から、2012年9月24日(月)～26日(水)に九州大学で第84回大会を開催する準備を進めている旨、挨拶があった。

日本遺伝学会木原賞・奨励賞授与式記録

総会終了後、今年度の木原賞受賞者(石浦正寛会員, 近藤孝男会員)および奨励賞受賞者(石井浩一郎会員, 佐瀬英俊会員)に五條堀孝会長からそれぞれ賞状と副賞が授与された。授賞式終了後に木原賞, 奨励賞受賞講演が行われた。



2011年度日本遺伝学会編集委員・編集顧問合同会議議事概要

開催日時：2011年9月19日（月）16：30－18：00

会議場所：京都大学吉田キャンパス北部構内旧演習林事務室会議室

出席者：岩崎，松浦，村田，中別府，颯田，澤村，館田，田嶋，寺地，山本（和），山本（雅），五條堀，平野，伊藤，森脇，向井，森，遠藤，河村，米田，村井，高橋，田中，藤，中辻，品川（敬称略）

議 題

1. GGS PRIZE について

颯田委員より候補3論文が選ばれた経緯及び各論文の内容の説明があった。審議の結果次の2編を GGS prize 2011 として決定した。

(1) Genes & Genetic Systems Vol. 85 (2010), No. 1 p. 75-83

Alu-derived cis-element regulates tumorigenesis-dependent gastric expression of GASDERMIN B (*GSDMB*)
Hiromitsu Komiyama, Aya Aoki, Shigekazu Tanaka, Hiroshi Maekawa, Yoriko Kato, Ryo Wada, Takeo Maekawa, Masaru Tamura and Toshihiko Shiroishi

Arguments supporting this decision were:

GSDMB belongs to a gene family GASDERMIN and is highly expressed in cancerous cells. The mechanism of its expression was investigated in detail in this paper. One of the interesting findings of the paper is that an Alu element residing in the 5' region upstream of *GSDMB* positively regulates *GSDMB* expression.

(2) Genes & Genetic Systems Vol. 85 (2010), No. 4 p. 243-257

Genetic analysis of DNA repair in the hyperthermophilic archaeon, *Thermococcus kodakaraensis*
Ryosuke Fujikane, Sonoko Ishino, Yoshizumi Ishino and Patrick Forterre

Arguments supporting this decision were:

In this paper, the authors analyzed the DNA repair system of a hyperthermophilic archaeon, *Thermococcus kodakaraensis*. This is the first genetics paper of a hyperthermophilic archaeon in the world and suggests that the archaeal DNA repair system has repair related proteins different from those of eukaryotic and bacterial DNA repair systems.

2. 編集委員・編集顧問の交代等について

以下の編集委員・編集顧問の退任，新任及び編集会議の体制が報告，了承された。

[編集委員長（編集幹事）の交代]

遠藤 隆氏→館田 英典

[退任]

岡田 典弘氏 [編集委員]

Chung-I Wu 氏 [編集委員]

高橋美保子氏 [編集顧問]

大坪 久子氏 [編集顧問]

[新任]

西原 秀典 東京工業大学大学院生命理工学研究科

〒226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町4259-B-21

Tel. 045-924-5744; fax 045-924-5835; hnishiha@bio.titech.ac.jp

NISHIHARA, Hidenori (Transposable Elements, Molecular Evolution, Phylogenetics, Mammalian Evolution)

高橋 亮 京都産業大学総合生命科学部

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

Tel. 075-705-3114; kenzi.k66@gmail.com

TAKAHASI, K. Ryo (population biology, ecological genetics)

[編集会議]

編集会議に前編集委員長の遠藤隆氏を加え，館田，颯田，岩崎，澤村，遠藤の5人の体制とする。

3. 編集委員・編集顧問の2年ごとの確認

以下の提案が承認された。但し交代にあたっては外国人、女性の数を有る程度保つ事に留意する必要があるという指摘があった。

[提案]

全ての編集委員・編集顧問に、2年ごとに次期(2012-2013年)お引き受け頂けるかどうか、編集委員長からのメールで前年10月に問い合わせ、承諾のご返事を頂いた場合にのみ継続する。

4. 編集委員での決定

以下の提案が承認された。

[提案]

編集委員は改訂の必要の無い最終原稿に対してのみアクセプトとする。

5. GGS のフォーマット

GGG のフォーマット (GGG Instructions to authors) について、田島 (WG 長)、平野、中別府、舘田よりなる WG で一年をめぐりに検討する事が了承された。引用文件については ASM 方式とする。

6. その他

(1) 新投稿システムで次の機能を追加できないか検討する (舘田が調査する)

1. accept の段階で editor が3段階評価 (excellent, very good, good) できるようにする。
2. 二重投稿チェックする。関連論文が調べられるようにする。
3. 二重投稿、ヒト DNA の扱い、組換え DNA、動物実験などについて各国の法令に遵守していることを投稿の段階でチェックする。

報告・協議事項

1. 論文発行状況

Volume 85

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other
1	8	0	8	0	0
2	7	0	7	0	0
3	7	0	7	0	0
4	6	0	6	0	0
5	6	1	5	0	0
6	4	1	2	0	1

Volume 86

号	掲載論文数	Review	Full	Short	Other
1	8	1	6	1	0
2	8	1	6	1	0
3	8	1	6	1	0
4					
5					
6					

2. 論文投稿状況（9月6日現在）

	2011. 4. 1～2011. 6. 27 2011. 6. 28～2011. 9. 2	2010. 4. 1～2011. 3. 31（参考）
投稿論文数	21+ 14= 35	85
採択論文数	3+ 3= 6	39
不採択論文数	9+ 3= 12	27
校閲中又は 取下げ論文数	9+ 8= 17	19
採 択 率	33% (6/18)	59% (39/66)

3. 新システムへの移行

6月26日より論文投稿システムがJ-STAGE から J-STAGE3 へ移行し、新システムでは Editorial Manager を使用する。

GG5 では6月25日までに投稿された論文については旧システムで編集を行い、それ以降に投稿された論文は新システムで編集する。なお旧システムは来年3月までの運用なので、これまでにこのシステムでの論文の編集を終える。

日本遺伝学会第83回大会 収支

収 入 の 部			支 出 の 部	
1. 参加費		<u>1,605,000</u>	1. 会議準備費	<u>1,605,775</u>
事前 一般会員	149名 × @7,000	1,043,000	1) プログラム・予稿集印刷・製作費	945,000
事前 学生会員	82名 × @0	0	2) 参加登録処理費(変更とりまとめ, 入金処理)	60,600
事前 非会員一般	6名 × @9,000	54,000	3) 印刷, 制作費(大会ポスター, 参加証など)	375,750
事前 非会員学生	4名 × @0	0	4) 通信・運搬関係費	178,740
	(241名)		5) HP サーバー利用費	9,800
当日 一般会員	51名 × @8,000	408,000	6) その他	35,885
当日 学生会員	9名 × @0	0	2. 会議当日費	<u>3,935,645</u>
当日 非会員一般	10名 × @10,000	100,000	1) 会場費(付帯設備利用含む)	342,237
当日 非会員学生	44名 × @0	0	2) 展示会場設営費	409,500
	(114名)		3) 機材, オペレーター費(大会期間中)	540,750
2. 懇親会費		<u>1,067,000</u>	4) 看板/表示作成費, 設置費	73,500
事前 一般会員	109名 × @6,000	654,000	5) 運営人件費・諸経費	818,660
事前 学生会員	43名 × @3,000	129,000	6) 会場備品費	78,064
事前 非会員一般	0名 × @6,000	0	7) 懇親会費	1,128,912
事前 非会員学生	0名 × @3,000	0	8) コーヒーコーナー費用	63,000
	(152名)		9) 公開市民講座関係費	481,022
当日 一般会員	32名 × @7,000	224,000	3. 業務委託費	<u>367,500</u>
当日 学生会員	14名 × @4,000	56,000	1) 展示会/広告事務委託費	105,000
当日 非会員一般	0名 × @7,000	0	2) 運営事務委託費	262,500
当日 非会員学生	1名 × @4,000	4,000	4. 予備費	<u>764,649</u>
	(47名)			
3. 要旨集広告掲載料		<u>441,000</u>		
4. 展示会出展料		<u>1,144,500</u>		
5. プログラム・予稿集	0部 × @3,000	<u>16,000</u>		
	16部 × @1,000			
6. 補助金, その他		<u>2,400,069</u>		
日本遺伝学会 補助金		1,000,000		
公開市民講座 補助金		1,400,000		
雑収入		69		
合 計		<u>6,673,569</u>	合 計	<u>6,673,569</u>

日本遺伝学会第83回大会を終えて

平成23年度の日本遺伝学会大会は、去る9月20日から22日までの3日間、京都大学農学部を会場として開催されました。本大会では、一般講演(141演題)の他、シンポジウム3件(17演題)、ワークショップ17件(男女共同参画・プレナリワークショップを含む)(88演題)を含め、合計246演題が全て口頭講演で行われました。大会参加者は354名で、その内、当日参加者は114名でした。本大会では、学生は会員・非会員ともに参加を無料にした結果、44名の非会員学生の当日参加がありました。これは、開催地域の学生に興味のある講演(特にワークショップ)を自由に聴講できる良い機会を提供できるので、日本遺伝学会の普及活動として有意義なものであると感じました。懇親会には200名を超える参加者があり、かなり盛大に行うことができました。大会の運営にあたり、これまでと同じ企画会社に依頼しました。また、前大会に引き続き参加登録演題登録システム(いくつかの改善をした結果、概ね満足できるものになりました)を利用いたしました。このため、前回の2000年に開催された京都大会と比較すると、大会組織委員の事前・当日の手間は大幅に軽減されたと思います。9月23日には、JR京都駅前のキャンパスプラザ京都で公開市民講座を開催いたしました。講演内容は興味深く、かなりの一般市民の参加があり、無事終了することができました。今回は、若い世代を対象にポスターなどの案内を近畿一円の高校に送付しましたが、参加者には高齢の方が目立ちました。公開市民講座の開催日(高校生は休日は課外活動でほとんど参加できないとのこと)と対象とする聴衆(団塊世代の退職者に対する広報活動が必要)が今後の課題になると思います。11月末までに、学会大会と公開市民講座の決算及び報告も完了し、一段落しました。この場をお借りして、遺伝学会から資金援助と大会組織委員の皆様のご支援・ご協力に厚く御礼申し上げます。

大会委員長 遠藤 隆

✧新名誉会員および学会賞受賞者の紹介✧

名 誉 会 員



石和 和男 会員



高木 信夫 会員

日 本 遺 伝 学 会 木 原 賞



石浦 正寛 会員

(名古屋大学遺伝子施設 教授)

藍色細菌と植物の生物時計の分子遺伝学的研究：
時計分子装置のリアルタイム測定、構造、機能
Molecular genetic studies on circadian clocks in
cyanobacteria and plants: real-time monitoring,
structure and function of clock molecular machinery



近藤 孝男 会員

(名古屋大学大学院 理学研究科 教授)

シアノバクテリアの概日時計の分子遺伝学と時計
蛋白質 KaiC の分子生理・生化学
Molecular genetics of circadian clock in cyanobac-
teria and function and biochemistry of clock pro-
tein KaiC

日 本 遺 伝 学 会 奨 励 賞



石井浩二郎 会員

(大阪大学大学院生命機能研究科 准教授)

染色体高次機能構築の制御機構
Regulation of chromosome higher-order
structure and its function



佐瀬 英俊 会員

(情報・システム研究機構 国立遺伝学

研究所 総合遺伝研究系 助教、

現：沖縄科学技術大学院大学)

シロイヌナズナを用いた新たな DNA メチル化制御
機構の研究
Novel mechanisms controlling DNA methylation in
Arabidopsis

2011年度日本遺伝学会木原賞候補者推薦書

推薦者：品川日出夫（バイオアカデミア株式会社 代表取締役社長，大阪大学名誉教授）

受賞候補者1：石浦 正寛（名古屋大学遺伝子施設施設長・教授）

・略歴

1971年3月 金沢大学理学部生物学科卒業
1976年3月 大阪大学理学研究科博士課程生理学専攻単位修得退学
1976年4月 大阪大学微生物病研究所谷口奨学生
1977年11月 大阪大学微生物病研究所動物ウイルス部門（岡田善雄教授）助手
1979年4月 基礎生物学研究所細胞融合部門（岡田教授兼任）助手
1984年6月－9月 米国立衛生研究所（NIH）（岡山博人博士研究室）
1995年4月 名古屋大学理学部生物学科 助教授
1996年4月 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻 助教授
1999年9月 名古屋大学遺伝子実験施設 教授
2004年4月 名古屋大学遺伝子実験施設 施設長
2004年10月－2007年3月 名古屋大学高等研究院研究員（兼任）
2007年4月－ 名古屋大学高等研究院院友（兼任）

受賞候補者2：近藤 孝男（名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻教授・名古屋大学高等研究院院長）

・略歴

1971年3月 名古屋大学理学部生物学科卒業
1976年3月 名古屋大学理学研究科生物学専攻満了
1978年10月 基礎生物学研究所制御機構研究系 助手
1985年6月－10月 ハーバード大学 客員研究員
1990-1991年 バンダービルド大学 客員研究員
1995年4月 名古屋大学大学院理学研究科生命理学専攻 教授
1999年4月 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 教授（併任2005まで）
2006年1月－2009年3月 名古屋大学大学院理学研究科 研究科長
2008年4月－ 名古屋大学高等研究院 院長

・研究題目（和文）生物時計の分子メカニズムに関する分子遺伝学的研究

（英文）Molecular Genetic Studies on Circadian Clock

・推薦理由

石浦正寛・近藤孝男両会員は共同してシアノバクテリアをモデル系とした生物時計（概日時計）の先駆的な研究を開始し、生物時計が蛋白質からなる精巧な分子装置、すなわち、遺伝的に高度に制御された遺伝子機能であることを見いだしました。これは、実験系の選択・整備から全く新規に開発したもので、日本発の独創的研究として世界的に高く評価されて、現在も、両会員は、この分野のフロントランナーとして世界を先導されています。

ヒトを含め、ほとんど全ての生物が約24時間周期の概日時計を持ち、昼夜が存在する自然環境下で巧みに生存しています。この概日時計は、生命が進化の過程で獲得した細胞の基本的な装置の一つといえますが、細胞がいかにして地球の自転周期を細胞内に記憶し、24時間の自律振動を発生するかという問題は、生命科学上の大きな課題の一つでもあります。また、時差ボケなどの現実生活上の問題に加えて、不眠症などの医学的な見地からも、その重要性が認識されています。

20年以上前基礎生物学研究所時代に、石浦・近藤両会員は出会い、シアノバクテリアをモデル系として共同研究を開始しました。彼らは、まず、ルシフェラーゼをレポーター遺伝子として用いることによって、生細胞における概日時計の動きを非破壊的に光としてモニターすることに世界で初めて成功しました。この系を利用して、概日時計突然変異体を多数分離し、時計遺伝子群 *kaiABC* (*kai* は回転の“カイ”から命名) を見出し、その発現が正負の自己制御を受けることを示しました。この結果は、バクテリアの時計遺伝子が高等生物と同様な機能を持つものとして高く評価されています。

1995年に両会員は、名古屋大学に異動し、1999年にはそれぞれ独立した研究室を主宰され、それを機に、徐々に独自の研究が展開するようになりました。

近藤会員は3つの Kai タンパク質と ATP を試験管内でインキュベートすることにより、温度に影響されずに24時間振動が発生することを発見しました。この成果は、世界初の時計発振の試験管内再構成系の確立であると同時に、蛋白質が「時を刻む」という、これまで全く予測されていなかった新しい機能を発見したもので、化学・物理分野の研究者にも大きな衝撃を与えました。

石浦会員は、好熱性藍色細菌で生物時計の実験系を開発し、生物時計の構造と機能を原子レベルで解明する研究を開始し、3つの Kai 時計タンパク質 KaiA, KaiB, KaiC の構造機能相関を明らかにしています。特に、KaiC に関しては、電子顕微鏡

写真の単粒子解析によって構造モデルを提案し、Kai タンパク質の常識外れで興味深い生化学的特性、機能の解明に貢献しています。

翻って考えると、両会員が独立の研究室を主宰されるようになっても、それぞれの発見は相補的で、相乗的に堅牢性の高いモデルの構築に役立っています。すなわち、上記の成果は、KaiC の持つ微弱な ATP 分解活性が極めて安定に制御され概日時計の速さを決定していること、また、KaiC 蛋白質内に、ATP の分解という生命の基礎反応をもとに原子レベルでの振子が機能することを示唆し、万人が驚愕すべき極めて高いインパクトがあります。

さらに、石浦会員は、シアノバクテリア生物時計と高等植物生物時計との機能的関連性を求めて、クラミドモナスやシロイヌナズナでも概日リズム変異体を網羅的に分離し、時計遺伝子及び時計関連遺伝子を網羅的にクローニングすることに成功しています。この中で、これまでクローニングに成功したシロイヌナズナの真の時計遺伝子の1つである *PHYTOCLOCK 1* は、今後最も注目される遺伝子の一つであります。

このように、両会員は、お互いの専門性と得意分野を活かして共同研究を開始し、生物時計の先駆的な研究を開始して世界的な最先端を切り開きました。両会員がそれぞれの研究室を主催し独自の成果が生まれるようになっても、お互いの研究成果は、相補的であり、また、学問的に不可分です。最も重要な点は、生物時計研究分野において、両会員がバイオニアであり、現在もフロントランナーであり、且つ、世界的牽引者であること、さらに、両会員の研究成果が当該分野にとどまらず、生物学分野を超えて、化学・物理学・医学など他の学問領域にも極めて強烈なインパクトを与えている点です。このことをふまえて、両氏のこれまでの功績は日本遺伝学会木原賞の共同受賞に最も相応しいと考え、心より推薦いたします。

今年度の木原賞についての補足説明

日本遺伝学会
学会賞選考委員長
五條堀 孝

平素より学会の発展に対し、いろいろとご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、木原賞選考経過につきまして少しご説明をさせていただきたく存じます。品川会員よりご提出いただきました推薦書では、石浦会員、近藤会員の2名で1件の推薦でした。しかし、選考委員会では石浦、近藤候補の受賞につきましては、共同研究を終了したあともそれぞれすばらしい研究の展開を見せていることから、共同受賞というよりもそれぞれの候補に独立に賞を授与することに致しました。この結果を推薦人の品川会員に伝え、それぞれの学会賞研究題目を再度ご提出いただき、選考委員の先生方の承認をいただきました。

以上のような経緯により推薦書の研究題目と受賞題目が異なりますが、今回は下記の2件を木原賞に選考決定いたしました。どうぞご了承いただければ幸いです。

石浦会員

「藍色細菌と植物の生物時計の分子遺伝学的研究：時計分子装置のリアルタイム測定、構造、機能」

「Molecular genetic studies on circadian clocks in cyanobacteria and plants: real-time monitoring, structure and function of clock molecular machinery」

近藤会員

「シアノバクテリアの概日時計の分子遺伝学と時計蛋白質 KaiC の分子生理・生化学」

「Molecular genetics of circadian clock in cyanobacteria and function and biochemistry of clock protein KaiC」

2011年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推薦者：岩崎 博史（東京工業大学大学院生命理工学研究科 教授）

受賞候補者：石井浩二郎（特任独立 准教授）

・略 歴

1993年3月 京都大学理学部 卒業
1993年4月 京都大学大学院理学研究科生物物理学専攻修士課程 進学
1995年4月 京都大学大学院理学研究科生物物理学専攻博士後期課程 進学
(1998年3月 博士号(理学)取得)
1998年4月 京都大学大学院理学研究科柳田充弘研究室 博士研究員
(1998年4月～1998年7月 日本学術振興会特別研究員)
1998年8月 ジュネーブ大学分子生物学教室 U. K. Laemmli 研究室 博士研究員
(1998年8月～2000年7月 HFSP 長期研究員, 2000年8月～2001年7月 EMBO 長期研究員)
2002年10月 久留米大学分子生命科学研究所細胞工学研究部門 助手
(2002年11月～2006年3月 JST さきがけ研究員(兼任))
2005年8月 久留米大学分子生命科学研究所細胞工学研究部門 講師
2008年12月 大阪大学大学院生命機能研究科染色体機能制御研究室 特任独立准教授

・遺伝学会における活動歴

2011年2月入会
入会以前にも、GGS 誌の査読を担当

・研究題目：(和文) 染色体高次機能構築の制御機構

(英文) Regulation of chromosome higher-order structure and its function

・推薦理由

石井浩二郎会員は、大学院時代から徹底して染色体の高次機能構築の制御機構に関する研究を積極的に推進している。最近の主要研究業績として、まず、セントロメアが染色体再編成に果たす役割の解明が挙げられる(主要文献1, 2, 3)。石井氏は、Cre-loxP系を用いた部位特異的組換え酵素を利用して、分裂酵母において、人為的に制御可能なセントロメア領域全体の切除システムを確立した。このシステムは、セントロメア動態研究において分子遺伝学的アプローチを世界で初めて可能にしたもので、再現性が高いかつ鋭敏なアッセイ系であり、このアッセイ系そのものも極めて高い評価を受けている。このシステムを用いて、セントロメアを切除すると、低頻度ではあるが、もとのセントロメアとは全く別の染色体上領域で機能的なセントロメアが自律的に形成されることを示した(ネオセントロメア形成)(主要文献1, 3)。ネオセントロメア形成自体はすでにいくつかの生物で報告されているが、それらは偶発的に発見された事例である。石井会員は、この現象を、実験室において再現性良く reproduce し、本来のセントロメアの切除によって誘導されるネオセントロメア形成が単なる偶発的な現象ではなく、染色体コンテキストとトランス因子によって制御される可能性を示唆した。

さらに、石井会員はネオセントロメア形成反応と関連して起こる染色体間のテロメア融合反応が起こることも発見している(主要文献1, 3)。興味深いことに、ネオセントロメア形成とテロメア融合はともに生物進化の過程で染色体に繰り返し起きていることが指摘されている。セントロメアの機能欠損がそのような染色体進化の源となるダイナミズムを導き出している可能性もあり、今後のさらなる解析が期待される。

石井会員は染色体バウンダリーエレメントの研究でも優れた業績を残している(主要文献6, 7)。バウンダリーエレメントは染色体構造に機能的な区分を与えるシス因子で、インスレーターと呼ばれる場合もあるが、その実体は十分には理解されていない。石井会員はヘテロクロマチンの拡張を区切るバウンダリーエレメントの同定を試み、そのために出芽酵母のサイレントなヘテロクロマチン座位である接合変換座 *HML* 内に二つのマーカー遺伝子を埋め込んだアッセイを考案した。このアッセイ系は、2種のマーカー遺伝子の転写抑制が同時に解除されることを観察することによってヘテロクロマチン遮断効果を検出しようとするものである。石井会員のアッセイの特徴は、二つのマーカー遺伝子が同時に脱抑制されることをスクリーニングする点であり、この遺伝学的なトリックにより、それぞれのマーカー遺伝子に特異的な直接的転写活性化効果を排除することを可能とした。このスクリーニングを用いて、染色体の核膜孔への物理的な繫留がバウンダリーエレメント活性を生み出すことを示している(主要文献6, 7)。近年、核膜孔近傍の核内空間が転写活性化領域であることが様々な実験生物で示され始めているが、石井会員の発見は、その潮流の源流であり、後続研究に多大な影響を与えている。

このように、石井会員は、酵母の遺伝学を駆使してユニークなアッセイ系を構築し、染色体高次機能の構築原理解明に真っ正面から取り組んでいる。その結果、これまで解析が容易ではなかった染色体構築の高次レベルでの機能制御に新しい概念を生み出し、その研究成果は当該研究分野の発展に大きな貢献を果たしてきた。日本遺伝学会会員としての期間はまだ短い。既に、GGS 誌の査読を担当する等、積極的な活動を開始している。同会員は、日本遺伝学会を今後の学術活動の中心に考えており、更なる貢献を期待できる。よって、世界を牽引する染色体高次機能構築機構の若手研究者として有望な人材であるとともに、日本遺伝学会を牽引していく将来のリーダーであると確信するので、石井浩二郎会員を2011年度日本遺伝学会奨励賞に心より推薦します。

2011年度日本遺伝学会奨励賞候補者推薦書

推薦者：角谷 徹仁（情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 総合遺伝研究系 教授）
受賞候補者：佐瀬 英俊（情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 総合遺伝研究系 助教，現：沖縄科学技術大学院大学）

・略歴 <学歴>

平成10年 京都大学農学部農林生物学科 卒業
平成12年 京都大学大学院農学研究科修士課程応用生物科学専攻 修了（指導教官：泉井 桂 教授）
平成15年 University of Basel (Switzerland), Phi-II, 修了（指導教官：Dr. Jerzy Paszkowski）
平成15年 Ph.D. (University of Basel) 取得

<職歴>

平成15年～16年 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 総合遺伝研究系 博士研究員
平成16年～19年 日本学術振興会特別研究員（SPD）
平成19年～20年 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 総合遺伝研究系 特任研究員
平成20年～現在 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所 総合遺伝研究系 助教
平成21年～現在 独立行政法人科学技術振興機構 さきがけ研究員（兼務）

・遺伝学会における活動歴

2006年 日本遺伝学会年会第78回大会ワークショップにて口頭発表
2008年 日本遺伝学会年会第80回大会ワークショップにて口頭発表 一般講演座長
2010年 日本遺伝学会年会第82回大会一般講演にて口頭発表
2010年度 日本遺伝学会選挙管理委員会 委員

・研究題目：（和文）シロイヌナズナを用いた新たな DNA メチル化制御機構の研究
（英文）Novel mechanisms controlling DNA methylation in Arabidopsis

・推薦理由

日本遺伝学会奨励賞の候補として佐瀬英俊博士の推薦を行うことを光栄に思います。彼は、Bazel 大学で博士を授与されて以降、7年間と少し、私の研究室で研究を行ってきました。今年の夏から OIST で独立の研究室を立ち上げることが決まっています。

Bazel での大学院時代には、DNA メチル化酵素の新たな突然変異体を単離し、その遺伝解析から、植物の半数体世代における細胞分裂で維持型の DNA メチル化酵素が必要なことを見いだしました（Saze et al. 2003 *Nat Genet*）。彼がこの時単離した突然変異体は、現在も世界中の多くの研究室で用いられています。

私の研究室に来てからは、彼は、全く新しい突然変異体の選抜系を立ち上げました。これは、ゲノム DNA のメチル化が上昇する突然変異体の選抜系です。シロイヌナズナは DNA メチル化の制御を研究するのに良いモデルですが、このようなタイプの突然変異体は彼以前には単離されていませんでした。この実験系を立ち上げるために長く努力した後、彼はたいへん興味深い突然変異体 *ibm1* (*increase in BONSAI methylation*) を単離しました（Saze and Kakutani 2007 *EMBO J*; Saze et al. 2008 *Science*）。*IBM1* 遺伝子のコードするタンパク質は、シロイヌナズナの数千の遺伝子に影響するヒストン脱メチル化酵素であることがわかり、この突然変異体を解析することで、植物の遺伝子のメチル化を制御する新たな経路が見つかってきています（Saze et al. 2008 *Science*; Miura et al. 2009 *EMBO J*; Inagaki et al. 2010 *EMBO J*）。

この選抜系を用いて、彼はさらに別の突然変異体 *ibm2* や *ibm3* を単離しています（未発表）。これらの遺伝子の産物も彼はすでに明らかにしており（未発表）、それらは新たなクロマチン制御経路の存在を示唆するものです。これらを用いた今後の研究も、大きな発展が期待できます。近い将来に論文にできるこれらの研究以外にも彼は、*IBM1* タンパク質の生化学的機能解析や、新たな突然変異体の選抜を進めており、それらも、OIST で独立後に新たな展開をすることが期待できます。

このように、佐瀬英俊博士は、これまで大きな業績をあげてきただけでなく、今後も大きな活躍が期待できる若手研究者です。特に、独自の研究を粘り強く行う姿勢は賞賛されるべきものと考え、奨励賞の候補として強く推薦したいと思います。

山田科学振興財団2012年度研究援助候補推薦について

山田科学振興財団より2012年度研究援助候補の推薦依頼がとどいております。推薦を希望される方は研究援助候補推薦要項・推薦用紙を以下のホームページアドレスよりダウンロードし、下記の提出書類1と2を2012年1月末（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる）までに学会事務局宛にご送付ください。

（下線部は昨年との変更点です。ご注意くださいますようお願いいたします）

【提出書類】

1. 推薦書1部、関連主要研究論文リスト（A4版大）2部、別刷論文（1～3種）各2部
 2. 調査委員へ調査依頼のため1.の書類の写し11部
 3. 1の書類（別刷論文を含む）のPDFファイルを電子媒体にコピーしたもの
- *（電子ファイルは直接山田科学振興財団へお送りください）

【注意事項】

- ・財団締切 2012年2月29日（例年より1ヶ月早くなりました）
 - ・提出書類3は申請者が直接山田科学振興財団へ送付する
- 詳細は以下のHPをご確認ください。
<http://www.yamadazaidan.jp/>

藤原科学財団 募集のご案内

藤原科学財団より第53回藤原賞受賞候補者の推薦依頼がとどいております。推薦を希望される方は推薦要項・推薦用紙を以下のホームページアドレスよりダウンロードし、財団への提出書類及びその写し11部（別刷論文のコピーを含む）を郵送にて、2011年12月末（学会内で選考のため財団の提出締めきりより、通常は1ヶ月早く締めきる）までに学会事務局宛にご送付ください。

記

賞は毎年2件とし、副賞として各1千万円を贈呈しております。

1. 推薦の対象は、自然科学分野に属するものとします。
2. 受賞候補者は、日本に国籍があり、且つ日本在住の方であれば、ほかに賞を受けられた方でも、また以前に推薦された方でも結構です。
3. 受賞候補者には必ず所属組織、研究機関の長の推薦が必要です。
4. 受賞候補者は原則として受賞対象題目1件につき1人とします。
5. 同封の推薦要項書（No. 1, No. 2の2枚、コピーでも可）に、必要事項を記入してお送り下さい。
なお参考資料として、受賞候補者の受賞対象題目と関係する主要論文テーマ（10篇以内）のリストおよび主要論文3篇以内の別刷（コピーでも可）を各1部ずつ、同封してお送り下さい。この資料はご返却いたしませんのでご了承願います。
6. 選考は5つの分科に分けて行いますので、推薦要項書P1上段の希望分科欄に推薦者が考えた希望の分科を○で印囲んでください。
7. 受賞者の決定は2012年5月中旬とし、贈呈式は同年6月15日（金）に行います。贈呈式は受賞者本人の出席を前提とします。
8. 推薦要項書用紙を別にご入用のときは、当財団へご請求下さい。早速お送りいたします。
9. 推薦要項書提出締切日 2012年1月31日（火曜日）
10. 推薦要項書送り先
〒104-0061 東京都中央区銀座3丁目7番12号（王子不動産銀座ビル）
公益財団法人 藤原科学財団 TEL (03) 3561-7736
FAX (03) 3561-7860

11. 藤原科学財団ホームページ <http://www.fujizai.or.jp/>
ホームページ上にも募集要項書がPDFにて掲載されています。

◆会 員 異 動◆

新入会・再入会

加藤 太陽	693-8501	島根県出雲市塩冶町89-1 島根大学医学部
高橋 阿貴	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所 マウス開発研究室
藤井 壮太	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学理学研究科 植物分子遺伝学研究室
志波 優	156-8502	東京都世田谷区桜丘1-1-1 12号館 6階 東京農業大学生物資源ゲノム解析センター
幡基 友紀	700-8530	岡山県岡山市北区津島中3-1-1 岡山大学理学部生物学科 分子遺伝学研究室
土本 大介	812-8582	福岡県福岡市東区馬出3-1-1 九州大学生体防御医学研究所脳機能制御学分野
安平 進士	028-3694	岩手県紫波郡矢巾町西徳田2-1-1 岩手医科大学医歯薬総合研究所腫瘍生物学研究部門
夏目 知子	060-0808	札幌市北区北 8 条西 5 丁目 北海道大学農学院生物資源科学専攻 植物育種科学講座 植物育種科学分野
安部 晃生	464-0861	愛知県名古屋市中種区不老町 E1-1 (300) 名古屋大学大学院生命農学研究科
柴村 明宏	113-8657	東京都文京区弥生1-1-1 7号館B棟636号室 東京大学大学院農学生命科学研究科 生産・環境生物学専攻 植物分子遺伝学研究室
荒川 愛作	305-8602	茨城県つくば市池の台2 独立行政法人農業生物資源研究所
松島 若菜	338-8570	さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院・理工学研究科・遺伝情報研究室
峯島 良太	338-8570	埼玉県さいたま市桜区下大久保255 埼玉大学大学院理工学研究科生命科学系専攻 分子生物学コース
難波 恵理	171-8501	豊島区西池袋3-34-1 立教大学大学院理学研究科生命理学専攻
渡辺 和哉	171-8501	東京都豊島区西池袋3-34-1 立教大学理学部生命理学科
保坂 碧	411-0854	静岡県三島市谷田1111 総合研究大学院大学生命科学研究科遺伝学専攻
大島 枝里子	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 東京大学理学部 2号館203 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻 進化遺伝学研究室
秋田 鉄也	240-0193	神奈川県三浦郡葉山町 (湘南国際村) 総合研究大学院大学
大塚 裕一	560-0043	大阪府豊中市待兼山町1-1 A216 大阪大学大学院理学研究科生物科学専攻
渡邊 昌秀	616-8354	京都市右京区嵯峨一本木町1 京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター
蘆野 龍一	277-8562	千葉県柏市柏の葉5-1-5生命棟502 東京大学新領域創成科学研究科先端生命科学専攻 人類進化システム分野
松下 裕香	277-8562	千葉県柏市柏の葉5-1-5生命棟502 東京大学新領域創成科学研究科
Joshi, Giri Prasad	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学農学研究科応用生物科学専攻植物遺伝学分野

永 島 はるか	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 理学部二号館203 東京大学大学院 理学系研究科 生物科学専攻 進化遺伝学研究室
寺 澤 匡 博	565-0871	大阪府吹田市山田丘3-2 大阪大学蛋白質研究所 篠原研究室
金 城 その子	411-8540	静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所 遺伝情報分析研究室
阿 部 陽	024-0003	岩手県北上市成田20-1 岩手県農業研究センター
池 田 理恵子	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所
原 雄一郎	135-0064	東京都江東区青海2-4-7 産総研・臨海副都心センター 別館7F (独) 産業技術総合研究所 バイオメディシナル情報研究センター
大 野 悠 子	565-0871	大阪府吹田市山田丘1-3 大阪大学大学院生命機能研究科ナノバイオロジー棟 D807 大阪大学生命機能研究科
野 口 泰 徳	812-8582	福岡県福岡市東区馬出3-1-1 九州大学大学院薬学府分子生物薬学分野
森 脇 隆 仁	606-8502	京都市左京区北白川追分町 京都大学大学院理学研究科
宮 坂 勇 輝	156-8506	東京都世田谷区上北沢2丁目1-6 東京都医学総合研究所 哺乳類遺伝プロジェクト (新潟大学大学院 医歯学総合研究科)
大 西 哲 生	351-0198	埼玉県和光市広沢2-1 理化学研究所脳科学総合研究センター
平 野 邦 生	606-8507	京都市左京区聖護院川原町53 京都大学大学院 医学研究科
中 原 舞	860-0811	熊本県熊本市本荘2丁目2-1 熊本大学 生命資源研究・支援センター 熊本大学院薬学教育部
中 込 滋 樹	190-8562	立川市緑町10-3 統計数理研究所
杉 野 隆 一		神奈川県三浦郡葉山町湘南国際村 総合研究大学院大学生命共生体進化学専攻
Piero CARNINCI	230-0045	神奈川県横浜市鶴見区末広町1-7-22 独立行政法人 理化学研究所 オミックス基盤研究領域
山 崎 将 紀	675-2103	兵庫県加西市鶉野町1348 神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター
小 出 陽 平	305-8686	茨城県つくば市大わし1-1 国際農林水産業研究センター 生物資源利用領域
Del Carpio Adriel	616-8354	京都市右京区嵯峨一本木町 京都工芸繊維大学 ショウジョウバエ遺伝資源センター

連絡先自宅のため不掲載

松永 航, 三田琴美, 佐藤衣里, 桑山 崇, 宮松沙織, 岡素雅子, 渡辺光一, 及川達巳, 久高洋介, 武田拓也, 乾こゆる, 唐木智充, 亀井敦哉, 松本篤彦, 伊藤健太郎, 川崎昭仁, 小泉智洋, 今泉 優, 神崎秀嗣, 澤田彰子, 田中尚志, 大柳 一, 原 暢, 伊庭直志, 福田 溪, 関根大輔

退 会

塚田三香子, 井上達生, 米田典央, 橋本 輝, 永田恭介, 松浦誠司, 辛島 健, 宮良晶子, 安住 薫, 安藤麻子, 寺東宏明, 宮崎隆明, 岩田真也, 山本亜希, 工藤久幸, 後藤冬樹, 柳島静江, 林 真, 吉田郁也, 永吉照人, 片山寛則, 栗原大輔, 堺 和彦, 濱田純也, 呉宮恵理, 吉用武史, 黒木理恵, 三本松良子, 依光武志, 清川一矢, 従二直人, 大西近江, 生駒一徹, 禾 泰壽, 田邊康志, 山口新平, 和田哲也, 中村賢太, 大西憲幸, 吉田祐輔, 尾崎省吾, 田子友一朗, 蛭田千鶴江, 諸岡直樹, 瓜尾政博, 高橋永一, 楠田 潤, 鈴木昭夫, 井上英二, 深松陽介, Roy Shradha, 櫻庭喜行, 樋渡智秀, 勝村啓史

日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したとき、あるいは定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。
7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。

<p>Genes & Genetic Systems 第86巻4号 (付録) 2011年12月22日発行 非売品 発行者 五條堀 孝 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html (電話・FAX 055-981-6736 振替口座・00110-7-183404 加入者名・日本遺伝学会)</p> <hr/> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
---	---